

お子様の健やかな成長を願って

小児科・泉医師が お答えします!

その2



先月号に続いて、小児科の泉陽一医師が、保護者の皆さんのお悩みにお答えさせていただきます。

予防接種の心配は

ワクチン接種の順序は重症になりやすい病気や流行している病気に対するワクチンを優先し、多種のワクチンがありますので、接種後から次回接種までにあげなければいけない間隔を考えると、期間内にワクチン接種が終わるように、ワクチン接種可能な月齢になり次第、早めに開始したほうが良いです。決められた間隔は生ワクチン接種後は中27日あけて接種、不活化ワクチン接種後は中6日あける必要があります。ワクチンの同時接種も有効で、世界では標準的に行われています。日本小児科学会で推奨しているワクチン接種スケジュールの表もありますので、ご参照ください。

http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/vaccine_schedule.pdf

大切なお子様方を病気から守るために是非ともワクチン接種をおこなってください。

食物アレルギーと副反応

食物アレルギーや副反応については、特に卵アレルギーがわかっているお子様のご両親にとって、とても心配な事だと思います。鶏卵を使用しているワクチンは、インフルエンザワクチンと黄熱ワクチンの2種類です。ただしこれらのワクチンに含まれる卵蛋白は、とても微量です。ほとんどのお子様達には問題なく接種出来ますが、重度の卵アレルギー（卵摂取後に重篤なアナフィラキシー反応を起こした事）があるお子様の場合はメリット、デメリットをアレルギーの主治医とよく相談してから接種を決めた方がよろしいかと思います。また、麻疹ワクチン、ムンプスワクチン、狂犬病ワクチン、一部の風疹ワクチンには卵蛋白と反応する成分が含まれていますが、極めて微量ですので、卵アレルギーのあるお子様でも普通に接種できます。卵成分以外についてのアレルギー反応を起こす可能性もあります。アナフィラキシーを起こした経験のある方の、副反応をあらかじめ予測できる確実な方法はありますが、アナフィラキシーが出現した場合に備えて、入院施設がある医療機関で接種したほうが良いと思います。またワクチン接種後には副反応が生じても対処出来るように30分間は病院内に滞在していただき、お子様を観察させていただきます。

当院で取り扱っている予防接種

【定期予防接種】

- ・インフルエンザ菌（ヒブ）
- ・肺炎球菌
- ・四種混合（百日咳、破傷風、ジフテリア、ポリオ）
- ・三種混合（百日咳、破傷風、ジフテリア）
- ・二種混合（破傷風、ジフテリア）
- ・不活化ポリオ（小児まひ）
- ・BCG
- ・麻しん、風しん（MRワクチン）
- ・日本脳炎
- ・子宮頸がん（HPV）＜※婦人科で＞

【任意予防接種】

- ・インフルエンザウイルス
- ・水疱（みずぼうそう）
- ・おたふくかぜ
- ・ロタウイルス
- ・B型肝炎（HBV）

予防接種（毎週水曜日の午後、金曜日の午後）
乳児健診（毎週木曜日の午後）

予約やお問い合わせは TEL 048-996-1131（代）小児科外来



八潮中央総合病院院外広報誌

ふれあい

2014年
4月

発行：医療法人 社団協友会 八潮中央総合病院 編集：広報委員会
〒340-0808 埼玉県八潮市緑町1丁目41-3 TEL048-996-1131 FAX048-997-2315

新病院いよいよ着工!



出席した幹部職員



中村副会長によるくわ入れ

2月25日（火）午前11時から、新病院建設予定地において「地鎮祭」が執り行われました。当日は、上尾中央医科グループ（AMG）協議会から中村康彦副会長（協友会理事長）、齋藤雅彦総局長など協議会役員を招き、当院の真田院長はじめ副院長、事務長、看護部長など幹部職員が現地に出向いて行われたもので、神職の祝詞奏上、地鎮、玉串奉天などがつつがなく執り行われ、工事を請け負う建設業者の関係者とともに新築工事の安全祈願が行われました。

新病院は3月着工し、来年秋の竣工を予定しておりますが、今後の工事の進捗状況は当院のホームページ等でお知らせしてまいります。

新病院がいよいよ着工となります。今後も職員一丸となって「地域から信頼される病院」をめざして努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

地鎮祭行われる



祝 地鎮 医療法人社団協友会 八潮中央総合病院移転新築工事

新病院は来年秋に竣工



新病院外観



エントランスホール



健診センター待合



外来待合



病室4床

新病院の概要
 住所：八潮市南川崎地内
 構造：鉄筋コンクリート造・五階建て
 敷地面積：六五四・三七㎡
 延べ床面積：一三七二九・一七㎡
 病床数：二五〇床 駐車台数：八四台



院内勉強会を開催

より高度な医療をめざして

当院では各委員会で計画的に勉強会を実施しており、全職員が最新の情報を職務に活用すべく学んでいます。今後も積極的に実施してまいります。

NST・褥瘡対策委員会の勉強会



2月21日（金）18時から管理棟食堂において、「褥瘡と栄養管理」をテーマに、NST（栄養サポートチーム）と褥瘡対策委員会の合同研修会が行われました。当日は、「褥瘡の発生要因」、「褥瘡の治療・予防に必要な栄養素」、「褥瘡の栄養管理ガイドライン」、「アルギニン」などについて説明が行われ、参加した80名の職員が熱心に受講していました。

消防症例カンファレンス



2月26日（水）17時から、管理棟2階会議室において「消防症例カンファレンス」を行いました。これは救急搬入されるさまざまな症例について、八潮市消防署職員の質問に応じて当院医師から医学的知見を説明するもので、毎年定期的に行っているものです。当日は消防職員20名が参加し、当院の医師・看護師・診療放射線技師等が説明を行いました。

医療安全対策委員会・感染対策委員会の勉強会



2月28日（金）午後6時から、管理棟1階食堂において、医療安全対策委員会と感染対策委員会の合同研修会を開催しました。前半は医療安全対策委員会の研修会で、テーマは「EMコールの周知と5S活動中間報告」で、EMコールの現状と注意すべき事項について説明があった後、院内各部署が取り組んでいる5S活動の中間報告が行われました。EMコールとは、院内で急変した方が発生した時に、全館放送で職員に知らせることによりいち早く現場に駆けつけて救命処置を行うことを言います。突然のコールに対応できるよう、抜き打ちで訓練を行っております。後半は感染対策委員会の研修会で、「疥癬」感染予防対策についてデータに基づいて説明が行われました。

倫理委員会・医薬品安全委員会の勉強会



3月14日（金）午後6時から、管理棟食堂において、倫理委員会と医薬品安全委員会の合同勉強会が行われました。講師は、長谷川薬局長。前半は倫理研修で、「倫理学とは」「医療の進歩と倫理的問題」などについて説明があり、その後当院の「病院理念」「基本方針」「患者様の権利」について、その重要性の再確認が行われました。つづいて後半は医薬品安全研修会で、医療機能評価機構が集積している医薬品に関する事故が紹介されました。事例の中では、インスリン含有の誤認、薬剤の取り違え等が紹介され、事故を防ぐための方法等について詳細な説明がありました。両勉強会には約80名の職員が参加し、最後まで熱心に受講いたしました。